



# 丹波だより 4月号

創立115年

指宿市立丹波小学校

令和6年4月12日発行

児童数482名

【学校教育目標】「大きな夢の実現のために、心豊かで、たくましい丹波の子を育てる」

【校訓(丹波魂)】「よく考える すすんで実行する最後までやりぬく」

【めざす子どもの姿】

「互いに知恵を出し合う子」「明るく思いやりのある子」「根気強く体をきたえる子」

〔学校ホームページ〕  
※ブログもご覧ください



〔住所〕指宿市湯の浜3丁目2-6  
〔TEL〕0993(22)3011

## 観光客が見た丹波の子

校長

4月8日(月)、新1年生75人を迎えて新学期が始まりました。

子供たちも保護者の皆様もそれぞれに、入学や進級の期待に胸を膨らませ新学年を迎えられたことと思います。反面、学級が替わるなど新しい環境への不安もあるかもしれません。何か心配なこと等がありましたら、遠慮なく学級担任へ御相談いただきたいと思います。

さて、先月、学校へ一本の電話をいただきました。御名前は名乗られませんでした。50年振りに指宿を訪れたという女性からで、おそらく観光客だと思われます。それは、以下の内容でした。

3月11日14時46分、東日本大震災の発生時刻に市内でサイレンが鳴った。そのとき5年生ぐらいの子供が、しっかりと立ち止まって黙とうをしていた。その姿に大変感銘を受けたとのことでした。是非何かの折に、そういう素敵な姿があったことを他の子供たちや保護者の方々にも伝えてほしいとのことでした。

今年は月曜日で、その時間は下校途中でしたが、哀悼の意を表し犠牲者の御冥福を祈る行為がしっかりとできる子供がいたという事実、職員一同とてもうれしい気持ちになりました。そして、丹波の子のよい姿を電話でわざわざ知らせていただき、本当にありがたく思うことでした。

学校周辺の道路は、多くの観光客の通り道になっています。外国人の方々も通ります。その方々は、登下校の子供たちの姿も見ることでしょう。

指宿に来られた観光客にとっては、「丹波小の子供たち」＝「指宿の子供たち」「鹿児島の子供たち」、とりわけ外国の方にとっては「丹波小の子供たち」＝「日本の子供たち」の姿として記憶に刻まれるのだなあと、改めて思うことでした。

本校は、目指す子供像の一つに「明るく思いやりのある子」を位置付けています。学校や家庭、地域みんなで、これからも心豊かな優しい丹波の子を育てていけたらと思います。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。



### 【始業式の児童代表のことば】

六年

今日から新しい学年での学校生活が始まります。私にとっては、小学校生活最後の一年です。この一年がよい一年になるように、また充実した一年になるように、三つの目標を決めて、がんばっていきたく考えています。

一つ目は、勉強をがんばるということです。私は、去年、理科と算数のテストであまりよい点数をとることができず、たいへんくやしい思いをしました。わたしが努力することは、見直しをしっかりとすること、分からないことは先生や友達に積極的に聞くということです。もちろん、他の教科もしっかりがんばります。

二つ目は、健康に気をつけるということです。自分の不注意から病気になって欠席してしまうと、その分の学習はできません。あとから取り戻すのは、とても大変です。また、友達との楽しい思い出も逃してしまうかもしれません。一年間、早寝・早起き、手洗い・うがいを心掛け、健康を維持したいと思います。

三つ目は、最高学年としての自覚をもつということです。手本となる姿を下の学年に示すことができるのが最高学年です。よいこと、正しいことを行動や姿で教えられる6年生になります。

今日から6年生という自覚をもって、はじめのある学校生活を送りながら、思い出いっぱいの一年にしたいと思います。そして、「頼れる6年生」「誇れる6年生」を目標にしてがんばります。

